



教育目標

学ぶ チャレンジ 夢実現

本年度の重点目標

1 学習指導の強化…基礎基本の定着、学び直しの支援

2 生徒指導の充実…規律ある生活、基本的生活習慣の確立

3 進路指導の改善…進路目標の明確化と職業観・勤労観の育成

達成度

A ほぼ達成（8割以上）

B 概ね達成（6割以上）

C 変化の兆し（3割以上）

D 不十分（3割未満）

学 校 自 己 評 価							
現状と学校評価実施計画				達成状況と改善策			
No	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の 評価指標	方策の達成状況	達成度	次年度への 課題と改善策
1	【学習指導】 ・不登校や学習時間の不足から、小・中学校の学習内容が定着していない生徒が多く見られる。 ・学ぶことへの意欲が低い生徒がいる。 ・非常勤講師を除き、各教科1名の体制であるため、教員同士で切磋琢磨する場面が少ない。	(1) 教員の授業力の向上	①年間2回の校内公開授業における授業への積極的な参観とその後の意見交換、見学者アンケートにより授業力の向上を図る。 ②授業評価を組織的に実施し、結果を踏まえ授業改善を図る。	・1回の公開授業に1人5回以上参観する。 ・アンケート結果を授業者の振り返りにする。 ・よかった点を共有する。 ・組織的な授業評価の実施	・参観回数の平均は1回目4.7回、2回目6.7回であった。授業の良い点等を共有できた。 ・生徒アンケートを実施し、1月に提出してもらう予定。	B	・校内公開授業への積極的参加を、今後も呼びかけていく。 ・授業評価システムは、授業改善に役立つシステムとなるようさらに充実を図っていく。
		(2) 基礎学力の定着	①「マイスタディ」の時間ごとに小テストを実施し、返却時に担当教科で事後指導を行い、基礎学力の定着を図る。	・小テストの実施状況 ・事後指導の実施	・毎時間小テストを実施し、各教科で事後指導を行った。	A	・生徒・教員にアンケートを取り、1月の学習部の部会で話し合う予定である。
2	【生徒指導】 ・多くの生徒が落ち着いた学校生活を送っている。一部の生徒に長期欠席、遅刻や早退の回数に課題がある。また規範意識が希薄な生徒がいる（頭髪、ピアス、SNSの利用等）。 ・不登校を経験したことから、自己評価が低い生徒や、対人関係に悩む生徒が多い。 ・入学を機に学び直しや、様々な活動を通して、自信をもつようになり、進路等の自己実現を達成する生徒も多い。	(1) 生徒指導の充実と規範意識の向上	①登下校、遅刻、頭髪、巡回指導を組織的・計画的に実施する。その際、言葉かけや賞賛により自尊感情を高め、規範意識の向上を図る。また、保護者と連携し、その効果を高める。 ②情報モラル教育、交通安全教育、薬物乱用防止教育で外部講師を活用する。	・出席率90%以上 ・遅刻者数800件以内 ・規範意識に関するアンケート結果 ・月間皆勤者数の向上 ・規範意識に関するアンケート結果 ・トラブル発生件数	・12月末現在、出席率87%は昨年と同程度、遅刻数717件は昨年度より50減。 ・規範意識に関するアンケート結果は「いじめ」以外は昨年並み。 ・特別指導1件と例年より少ない。	B	・保護者との連携をさらに密にし、欠課超過を防ぐために学習部とも連携する ・生徒への声かけを積極的に行い、授業での観察など小さな変化も見逃さないよう教職員間の情報交換を密にする。
		(2) 教育相談の充実と生徒理解の推進	①教育相談体制の充実や、スクールカウンセラー、気付きメモの活用を図る。 ②発達障害や特別支援教育に関する職員研修の実施。	・面接や各年次の情報交換の実施状況、スクールカウンセラーや気付きメモの活用状況 ・職員研修の実施の有無	・教育相談を5月と9月に実施した。 ・S Cへの相談は1回、児童相談所への相談は3回行った。気付きメモは11月末194件。	B	・生徒に関する情報の共有を積極的に行うために、気付きメモの活用を今後検討する。 ・研修を実施できなかった。次年度実施したい。
3	【進路指導】 ・職業観、勤労観が確立されていない生徒が多い。 ・自己理解の不足から、進路実現のための具体的方策を見出せない生徒がいる。	(1) 職業観の確立・進路意識の高揚	①行事を改善し、職業観の確立、進路意識の高揚を図る。 ②勤務先調査を実施するとともに、昼間の時間を効果的に活用するよう働きかけ、働くことの意味を考えさせる。	・職業観、進路意識に関するアンケートの結果 ・就労率70%以上 ・職業観に関する生徒アンケート結果	・アンケートの結果、進路行事や職業観に関する肯定的回答は昨年度より減少した。 ・就労率は71.1%であった。	B	・次年度は進路に関する行事を見直す必要がある。 ・渉外部と連携して、定時制後援会会員の職場を紹介するなど工夫する。
		(2) 自己理解の深化	①総合的な学習の時間における取組や適性検査の結果の面談等へ効果的活用を図る。	・自己理解に関するアンケート結果	・肯定的回答が74.4%であった。	B	・実施する適性検査の変更や結果の面談での活用方法を工夫する。

学校関係者評価
実施日平成29年1月19日
学校関係者からの 評価・意見等
・授業第一主義を基本の一つとしている本校にとって、生徒による授業評価は重要である。指導にあたる教員にも有益な制度であり、今後も継続してほしい。 ・アクティブ・ラーニングの意義を生徒に十分理解させることで、授業の一層の充実を目指してほしい。
・ネットトラブルに関しては、講話の実施などを、積極的に継続していく必要がある。 ・自尊感情の低さは解決すべき課題であるが、定時制課程に通学していること自体が向上心の現れでもあるので、アンケートの結果に関わらず、肯定的なとらえ方にもとづく指導をしていくことが必要である。